

# 常国寺だより

2020年 夏号

ほつとしました

聞思して遅慮することなかれ（よく聞きよく考え、ためらわず流されず）（教行心証）

衆徒 浅尾博之

令和二年も、もう半分過ぎました。今年も、新型コロナウイルス感染症の猛威で、外出が自粛され、営業活動の制限や、医療機関崩壊の危機など、今まで経験したことのない環境に置かれました。そのため、私たちの心に恐れ、不安、嘆き、エゴ、怒り、そしてねたみが現れ、自分ではどうすることもできない歯痒さで、感情的になり、人を批判したり、傷つける言葉を発したりすることは、なかったでしょうか。

仏教では、エゴや怒り、

ねたみにつながる心を三毒の煩惱（貪欲（とんよく）「瞋恚（しんに）」「愚痴（ち）」とし、煩惱の中でも特に私たちを苦しませ悩ませるものとしています。「貪欲」は、欲を意味し、自分さえ良ければという「汚い心」を生みます。「瞋恚」は、怒りという「恐ろしい心」を意味し、腹を立て、自心を失わせます。「愚痴」は、人をねたましく思う「醜い」心です。

コロナウイルス感染拡大で多くの人の心が荒む中、煩惱を抱える生臭な私

ですが、心暖まる、ほつとすることがあります。それは、フライデーオベーションなど、困難に立ち向う医療従事者等、エッセンシャルワーカーへの感謝を表す様々な取り組みに触れた時です。心が洗われる思いがしました。人を信じ、人を思いやる。そして、確かなことを聞き、ためらわず流されずしっかりと向き合いなさいという、表題にある親鸞御聖人の言葉と重なるものだと思います。皆さんがほつとしたのはどんなことですか。

合掌

## 鐘の音に耳をすませば……。

衆徒 浅尾妙綾

### お寺の鐘

「ゴォーン、ゴォーン」

敵かで余韻を残す梵鐘(ほんしょう)の音。除夜の鐘が、おなじみですが、童謡の「夕焼け小焼け」にもお寺の鐘は登場します。

現代では、時鐘(じしょう)は珍しくなっていますが、港区愛宕にある青松寺(せいしょうじ)さんでは夕方に時の鐘を打っていらっしやいます。常國寺には梵鐘はありませんが、ご法要の前に打つ喚鐘(かんしょう)はあります。

お寺の鐘の音は、真宗であれば間法集合の意味であり、仏法をいたたく合図となります。そのため、鐘を打つと一切の苦しみを停止させると

もいわれています。

時鐘はまた、時を知らせるだけではなく、仏法が広まるようにという願いも込められています。

### 高田派本山の大梵鐘

お寺の梵鐘一つ一つにお話がございます。

高田派本山の大梵鐘は、一六五二年、藤堂家から専修寺にお輿入れされた高松院(こうしょういん)さまが願主となつて、夫である堯朝(ぎょうちよう)上人(高田第十五世)の七回忌に当たつて建造されたものです。

堯朝上人は、専修寺住職を父・堯秀(ぎょうしゅう)上人から継承する届出を江戸幕府に申し出ますが、届

に不備があり、幕府からとがめられました。藤堂家のとりなしもあり、継承は認められましたが、その代わりに「親鸞聖人の真蹟を將軍へ献上せよ」との条件が提示されました。

この要求に応じることができず、堯朝上人は三十二歳の若さで自決されます。真蹟は守られましたが、高松院さまをはじめ、高田派門徒は深い悲しみに見舞われました。

同時期に、一身田の大火によつて本山の伽藍が焼失します。大梵鐘は堯朝上人の菩提をお弔いし、高田派の復興を願うものでもありました。

静かに響く鐘の音は、人々の心をやすらかにし、新たな思いを巡らせるご縁となっています。

# 春夏秋冬お料理帳

管理栄養士 浅尾昌美

## きゅうり

夏になると、きゅうりがたくさん出回りますが、その中の一つ、江戸・東京野菜の「馬込半白（まごめはんじろ）きゅうり」は、今ではあまり見かけなくなりました。このきゅうりは漬け物用でした。今のようならツツとした緑色ではなく、どこか武者のような、がっしりとした、下半分が黄緑から白いのが特徴です。

皮が硬く、ぬか漬けによく使われていました。実際に漬けもので食べましたが、味が深く、おいしいきゅうりです。

今回、ご紹介する料理は、市販の普通のきゅうりを使った、炒めものです。

材料 4人分

きゅうり	1本
なす	2個
塩	小さじ
油揚げ	1/2枚
調味料A	
みそ	15g
酒	小さじ
しょうゆ	大さじ1/2
みりん	大さじ
サラダ油	小さじ2
炒りこま	大さじ

### ■きゅうりとなすのみそ炒め

#### 《作り方》

- ① きゅうりとなすは薄切り。ボールに入れ、塩をふり10分おく。
- ② ①のきゅうりとなすを水でさら洗い、ザルに取り、水けをきる。
- ③ 油揚げは縦半分の長さの細切り

にしフライパンで炒める。

- ④ フライパンに油を入れ、キッチンペーパーで水気を切ったきゅうりとなすを入れて炒め、しんなりしたら調味料Aを加えてさらさら炒める。
- ⑤ 胡麻をふり、混ぜてからお皿に盛りつける。

### 常國寺落語会のお知らせ

八月二日(日)

十三時三十分～十四時三十分

演目 火焰太鼓 他

木戸 銭三千円

古典落語をたっふりと

お楽しみいただけます。

お電話でお申し込みください。

☎ 03 3583 0896

### 常國寺だより

編集者 浅尾 妙綾

発行 真宗高田派常國寺